

しゃきょう
「社協」は、みなさんの参加とささえあいで、地域福祉をすすめる福祉団体です。

ホームページアドレス
<http://www.yokosuka-shakyo.or.jp/shakyo/>

つくして
ハッピー

平成24年
1月
No.130

よこすか
しゃきょう since 1951
社協だより
YOKOSUKA

編集・発行—季刊—

社会福祉法人
横須賀市
社会福祉協議会
〒238-0041
横須賀市本町2-1
TEL. 046-824-3435
046-821-1301
FAX. 046-827-0264

2012年
～ともに～

うみかぜ公園付近にて

去年は、人の力の大きさ、心のあたたかさを強く感じる年でした。多くの人が不安な日々を過ごしましたが、横須賀でも復興を願ってさまざまな取り組みが行われました。ボランティアとして被災地で活動した人、義援金や節電などによって被災地を応援した人、みんなが力を合わせる姿に励まされた人：人の心と人の心が強く結びつくのを感じました。これからも、多くの人の力が必要です。新しい年も、行動する勇氣、寄り添うやさしさを胸に、ともに手をとり合っていきましょう。

平成23年度 共同募金 終了
「ご協力ありがとうございました」

赤い羽根
共同募金

10月1日▶12月31日

共同募金にあたたかいご支援、ご協力をいただき、ありがとうございました。

皆さまからお寄せいただいた寄付金は、神奈川県共同募金会を通じて民間の社会福祉を推進するための財源として活用されます。※募金の結果と配分概要は、次号(平成24年4月号)に掲載します。

募金活動に携わってくださる地域の皆さんも、寄付して下さる皆さんもみんなボランティアです。共同募金は、大勢のボランティアに支えられています。



「よこすか社協だより」は、みなさまからの賛助会費ならびに共同募金配分金を財源として発行しています。



東日本大震災

～今わたしたちにできること～



行ってきました被災地支援ボランティアバス〈岩手県陸前高田市〉

横須賀災害ボランティアネットワークと市社協の共催で実施している市民ボランティアバス。昨年7月から11月にかけて岩手県へ6便運行しましたが、3便までの山田町に続き、今回は陸前高田市で活動した5便の活動の様子をお伝えします。

●予定どおりの活動はできず…

10月22日の朝、予定どおりバスは42人の参加者に乗せて陸前高田市災害ボランティアセンターに到着。しかしながら、雨天のため午前中だけの活動になりました。活動場所は、市内米崎町堂の前付近。その土地の所有者は誰なのか生存しているのかもわかっていません。大きなガレキは撤去済みでしたが、後に残ったコンクリートの破片やレンガ、石、鉄筋などのほか、割れた陶器やガラス、プラスチック、流木など、雨の中42人で黙々と撤去、分別しました。



翌日は、陸前高田市社協生活支援相談員の伊藤雅人さんをお願いし、震災当日から今日に至るまでのお話を聴きました。震災直後の現地の様

子は、これまでに画面や紙面で見たり読んだりしたものとはまったく異なり、最も凄惨な情景が頭の中に描かれるような内容。自らも被災し、親



族や仕事を失い、一時は失意の中にいましたが、大勢のボランティアが支援してくれる姿勢に背中を押されるように自分たちも頑張らなければいけないという思いで現在に至っており、これからも何年も続くという話からは、継続的な支援の必要性を感じました。また、伊藤さんは社協の仕事とは別に3.11復興支援チームP@CTを立ち上げ、自らは事務局長として震災で家族や家を亡くした子どもたちのために10人ほどで寺小屋の活動をしているとのこと。

★今後の支援活動をどう考えるか

今後は被災された方々の心のケアが重要になってきています。伊藤さんによれば、今では明るくふるまっている人も多いように見えますが、メンタル面では大きなダメージを受けています。ボランティアが何度か同じ場所に行くと、現地の方も顔を覚えてくださるようになり、そのときの会話や顔見知りの関係になることが一つの支えになるとのことで、いかに継続的な支援が大切であるかを再確認しました。

東日本大震災義援金にご協力ありがとうございました

神奈川県共同募金会横須賀市支会で受け付けてあります。東日本大震災義援金について、皆さまからのあたたかいご協力を頂きましてありがとうございます。

これまでにお預かりしました義援金について、下記のとおりご報告いたします。

募金状況

(11月30日現在)

16,419,340円

ご寄付いただきました

ボランティアバスの運行に際し、多くの方からご支援をいただいています。

「横須賀から、東日本被災地の支援をしよう」と呼びかけた、今回のボランティアバスに対して、多くの方から寄付をいただいています。

ありがとうございました。

〈ご寄付いただいた方々〉 ※順不同・敬称略

中央地区ボランティアセンター、(社)横須賀青年会議所、青山社中(株)、よこすかさかな祭り実行委員会、明珍スイ、久里浜商店会協同組合、久里浜観光協会会長 加藤高明、SRF-JRMC親睦会、グループホームふれんど、NPO法人車椅子レクダンス普及会 横須賀支部、横須賀市動物愛護協会、横須賀三浦獣医師会、16ミリ試写室、匿名2件

(9月12日～11月30日)

東日本大震災 ～介護支援を経験して～〈宮城県気仙沼市〉



被災地では、大勢のボランティアの方々が活動しているほか、他都市の福祉施設の職員が、現地の施設で生活する方々や職員を支援しています。横須賀の施設職員による支援の様子を教えてくださいました。

3月11日に発生した東日本大震災により甚大な被害を受けられた方々の介護支援のため、神奈川県から介護職員の応援要請があり、第一陣として4月30日から5月5日までの6日間、宮城県気仙沼市にある特別養護老人ホーム春園苑に行きました。

支援内容は介護支援、水汲み、事務というものがありました。

介護支援では入所者の皆様の生活全般の介助が中心で、食事の介助やトイレ誘導、レクリエーション、傾聴等を行いました。入所者の皆様から「どこから来たの?」「遠くからご苦労様」といった声をかけていただき、また震災の時の話なども聞かせていただきました。被災者であるはずの職員の皆様は、交代者がいない等で12時間勤務、泊まり込みをして乗り切ったそうです。そんな職員の皆様の徹底した衛生管理や手厚い介護により震災後亡くなった入所者は少なかったと聞

きました。

その他では、震災直後から入所者最優先で対応にあたる職員の皆様の支援として、断水への対応で湧水を汲みに行く、事務仕事の手伝いをするという支援を行いました。



春園苑(気仙沼市)

今回の支援で学んだこと。難しいですがあらゆることを想定し対応策を練っておくことと、現地の方も私たちも想定外という言葉を超える発想力を持つことです。

また当たり前ですが、主役は現地の皆様。引き続き入所者の皆様に介護していくのは現地の方であるということをお忘れてしまうと、私たちの独りよがりになりかねません。うまく引継ぎができる一貫した支援をすることが大切です。そして最後に、「風化させないこと」。

横須賀養護老人ホーム 生活相談員 太田一弘

～地域の力をアップ
さらにUP!～

必見! “小さな工夫 大きな一歩” ⑬



共同募金配分事業

スペシャルな時間を一緒に過ごそう!

「おじいちゃん・おばあちゃんスペシャルあそぼう会」

中央地区社協では、地域の高齢者と諏訪幼稚園の園児が、楽しい時間を一緒に過ごすイベント「おじいちゃん・おばあちゃんスペシャルあそぼう会」を毎年開催しています。

16回目の今年も、100人以上の高齢者と園児が、歌や踊り、太鼓の演奏、ゲームなどを一緒に楽しみました。

このスペシャルあそぼう会は、少子高齢化がいわれ始めた



17年前、子どもと高齢者が一緒に楽しむ場を作れないかと、地区社協から園長に相談を持ちかけたことがきっかけとなり始まりました。

「以前いた幼稚園で、園児がお弁当を持って老人福祉センターへ行き、高齢者と交

流していました。この園でもふれあいの機会をもちたいと考えていたところだったので、いいタイミングで声を掛けさせていただきました」と話すのは、当時園長の青島さん。スペシャルあそぼう会は、幼稚園と地区社協の行事として定着しました。当日は、青島さんも招かれて、高齢者と園児がふれあう姿を笑顔で見守っていました。

市内でも、高齢者と子どもが集う催しを先駆けて始めた中央地区は、近年様子が変わり、商店と住居を別に移したため、参加者が少ない町内もあります。しかし、そこは下町、神輿やお祭りを中心に、6町会の結束力が強いことに加え、企業の協力も得て、「スペシャルあそぼう会」を盛大に開催しています。参加した高齢者は、「今年はいろいろなことがあったけれど、今日は子どもたちからたくさんの力をもらいました」と笑顔で話してくれました。

<土・日曜日>も開いています。

くらしの相談 相談は無料

お客様相談室

ご相談内容: 相続・年金・資産運用・税金・その他よろず相談をお受けしております。

お取り次ぎどころ

お取引店へ各種書類をお取り次ぎいたします。

横須賀中央駅前出張所 2階

フリーダイヤル 0120-046801

営業時間 午前10:00～午後7:00

お休み 12月31日から1月3日まで、および平日が休日の場合はお休みとさせていただきます。



TRiBank Miura Fujisawa 三浦藤沢信用金庫



ご利用ください

「福祉機器展示場&介護相談」



共同募金配分事業

総合福祉会館2階に福祉機器展示場があります。ここでは、車いすや歩行器などの移動機器、介護用ベット、入浴用品、トイレ用品、食事や衣類などの日常生活用品、リフトや手すりなどの住宅設備など約290点が常設展示されています。介護用品は、身体状況や用途に応じて多種多様になり、何を選んだらよいか考えてしまいますが、ここでは見て、聞いて、触れて、実際に試すことができます。「福祉機器や介護用品ってどんなものがあるの?」「家族を介護しているけれど、どんなものが適している

のか分からない」「カタログではなくて実物を見てみたい」と考えている方はぜひ一度いらしてください。

また、展示場では介護福祉士による介護相談も行っています。福祉機器の購入やレンタル、介護保険制度や福祉サービスの情報提供、在宅で介護していくための相談も受け付けています。(介護相談の受付時間や連絡先は8ページに掲載)

相談コーナーには、実際にどんな相談が寄せられるのでしょうか。相談員に聞いてみました。

Q 「現在、父が入院していますが、退院が間近に迫っています。退院後には、在宅での介護が必要になりますが、どのような介護用品を購入すれば良いでしょうか?」

A 「介護保険サービスを利用して、特定福祉用具を購入することや貸与を受けることができます。介護保険は申請が必要になりますので、手続きについては横須賀市介護保険課や担当区域の地域包括支援センターへご相談ください。なお、地域包括支援センターでは、介護の悩みや生活上の相談も受け付けています。」

Q 「トイレはどうしたらいいのかな?」

A 「自宅でトイレまで遠く、しかも歩行が不安定な方でしたらどうなりますか?住宅改修で廊下やトイレに手すりを設置したり、洋式便座や自動昇降便座もいいですね。また、室内にポータブルトイレを置いて活用することもできます。その方のADLや排泄サイクル、生活状況に合った方法を見つけましょう。」

※ ADL: 寝返り・歩行・食事・排泄など自立して生活するために必要な日常の基本的活動。

Q 「お風呂に入りづらくなったらどうすればよいですか?」

A 「お風呂場は家の中で一番危険なところですよ。安全で快適に入浴するためにも入浴用具選びは大切です。お風呂場に手すりを設置したり、すべり止めマット・シャワーベンチ・浴槽内チェア・シャワー用車いすなどの活用も考えましょう。また、清拭や部分入浴したり、訪問入浴や施設入浴のサービスの利用もあります。」



福祉機器展示場



相談風景

「介護のことで悩んだら、一人で考え込まずに、気軽にご相談にいらしてください。誰かに話すだけでも気持ちが軽くなります。」と相談員は笑顔で答えてくれました。

一日無料体験授業開催中!!

イトマンの授業を一度体験してみませんか。

●対象/全クラス

初めてイトマンの授業を受けられる方
※水泳に不適格な疾患のない方

電話予約制・お一人様1回限り

定員に限りがございます。お申し込みはお早めに!



正会員入会特典

1日無料体験授業受検後
正会員になられた方は

入会金
0円!



幼児・ジュニア
クラス

水着+
スクールバック

ベビークラス

ヘルパー+
スイミングキャップ

大人クラス

ゴーグル+
スイミングキャップ



イトマンスイミングスクール横須賀校

横須賀市日の出町3-11
<http://www.e-itoman.co.jp/>

☎046-823-6170

横須賀市社協の福祉活動を応援してください! 賛助会員募集中!!

横須賀市社協では、賛助会員を随時募集しています。

賛助会員は、市社協が地域福祉を進めていくための取り組みに対して、ご賛同いただける方々に会員としてご加入いただき、その会費を事業に活用させていただくことで、ご支援をいただくものです。

毎年度、賛助会員のみなさまのおかげで、充実した広報活動やボランティア関連事業を展開しています。みなさまのご支援をお待ちしています!

賛助会員のみなさまのご支援で
次の事業を行っています

- 社協だよりの発行 (年4回)
- ホームページの開設
- ふれあいキャンプ
- ボランティア体験
- おもちゃの病院



〈ホームページアドレス〉 <http://www.yokosuka-shakyo.or.jp/shakyo/>

賛助会員のご紹介

平成23年9月1日～11月30日
〈順不同・敬称略〉

★個人(12人)
板垣和子、廣部栄子、中山信利、山口きくえ、阿部玲子、
福本洋子、上田サト子、秋本龍美、永妻和子、金井利有子、
佐藤京子、望月一雄

★団体(6団体)
(有)川口包装、荅莉商店、まるなかデイサービス、サニ
ーステージ野比海岸、(株)ユーカー、デイサービスセン
ターあしたの風

☆加入方法☆
お名前とご住所を、電話・はがき・FAX・E
メール等でお伝えください。三浦藤沢信用金庫と
湘南信用金庫の振込用紙(両信用金庫のご協力に
より振込手数料が無料になります)を送付させて
いただきます。

個人会員 一口10000円 / 団体会員 一口50000円
*会費は年会費となっております。何口でも結構です。
〒238-0041 本町2-1 総合福祉会館2階
横須賀市社会福祉協議会 総務課
TEL(821)1301 / FAX(827)0264
Eメール shakyo@w97.so-net.ne.jp

賛助で参上!
社協活動応援団



快適なシルバーライフの実現へこんなご希望ありませんか?

- ・高齢者住宅に向けた資金準備をしたい
- ・買物便利で病院に通いやすい所へ住み替えたい
- ・今のうちから相続対策の準備をしたい
- ・お子さんと同居・親族の近くへ住み替えたい

まずはご相談ください!

売却 フロが売却不動産を無料査定!

新生活 高齢者施設に関しても無料相談お受けいたします。



ウスイホーム株式会社

久里浜店 ☎046-833-0006 野比店 ☎046-849-5500
馬堀海岸店 ☎046-841-7000 衣笠店 ☎046-853-5700
横須賀中央店 ☎046-828-3800 武山店 ☎046-856-0009



講習会 ひとり親

シングルパパ シングルママ

(しんパパ・しんママ)

家庭の生活術!



共同募金配分事業



ひとり親になることで洗濯・掃除・食事・余暇などの日常生活の悩み、仕事や収入の悩みなど、子育てをする上で不安を抱えることがあります。不安が大きくなると、なかには自宅へ引きこもってしまい、人とのコミュニケーションをさけてしまう人もいます。

そのときに、悩みをわかち合える友人がいたり、不安が解決できる情報があると安心です。

今回の講習会では、ひとり親(しんパパ・しんママ)の方々の話から、しんパパ・しんママ家庭が明るく前向きになれる生活術を学びます。

あわせて、町内の方々、民生委員、ボランティアなど地域で活動する方々が、ひとり親家庭へのサポートについて学ぶ機会とします。

- 【日 時】 2月25日(土) 13時30分～15時30分
 【場 所】 総合福祉会館 2階 第2会議室
 【対 象】 しんパパ・しんママ、ひとり親家庭に関心のある方
 【定 員】 先着30名
 【申込み】 1月11日(水) から受付。電話、ファクス、Eメールのいずれかで、①講座名、②住所、③氏名(フリガナ)、④年齢、⑤電話番号をお知らせください。
 【問合せ】 地域福祉課 TEL 821-1301
 FAX 827-0264
 E-Mail: shakyo@wg7.so-net.ne.jp

若年期認知症 よこすかのつどいと 講演会



認知症といえば高齢期になって発症する病気でした。しかし、最近では若年期(65歳以下)に発症する人が増えています。若年期に認知症になると、働き盛りでも仕事を続けることが困難となり、経済的に困窮したり、家事も難しくなって家庭崩壊につながったり、体力がある為にとても暴力的になったり、徘徊も発見されにくく何日も徘徊してしまったりと、高齢期に比べて家族は重大な課題をたくさん抱えることとなります。家族は地域社会にあっても孤立しがちです。

このたび、より多くの方に若年期認知症を正しく理解していただき、少しでも明るく楽しい生活が地域で継続できるきっかけになるよう、つどいと講演会を開催します。



- 【日 時】 3月4日(日)
 ☆介護家族交流会 10時～12時
 ☆講演会「若年期認知症と家族支援」13時～15時
 講師：杉山孝博氏(川崎幸クリニック院長、認知症の人と家族の会神奈川県支部世話人代表)
 【場 所】 総合福祉会館 5階 ホール
 【参加費】 無料
 【後 援】 横須賀市社会福祉協議会
 【申込み】 (公益社団法人)
 認知症の人と家族の会神奈川県支部
 TEL / FAX 044-522-6801

県立岩戸養護学校 PTA研修講演会

「自閉っ子、こういう風にできてます!」
 ～自分のナゾを解き、自立をめざす～

30代になってアスペルガー症候群と診断された作家ニキ・リンコさんが、自閉症のナゾを当事者側から語ってくれる、目からウロコの講演会です。知っておけば、気持ちにゆとりを持って子どもと関われるようになります!

- 【対 象】 発達障害に関心のある方
 【日 時】 2月19日(日) 13時30分～15時
 【場 所】 県立岩戸養護学校
 【参加費】 資料として1人500円
 【申込み】 1月18日(水) までに電話で県立岩戸養護学校へ直接お申し込みください。県立岩戸養護学校 支援連携グループ 飯村・野田 TEL 839-4503
 ※詳細はホームページをご覧ください。
 (<http://www.iwato-sh.pen-kanagawa.ed.jp/>)

葉山 馬の広場 / サポーター募集!!

湘南国際村めぐりの森(B・C地区)で動物介在教育のための「馬の広場(仮称)」の開設が予定されています。このためのサポーター会員を募ります。



内 容 馬を楽しむ基礎(エサやり・ブラッシング・馬具着脱・乗馬等)が体験できます。(経験者・未経験者歓迎)

会 費 6ヶ月間で1万円 募集会員 20名(要面談)

問い合わせ 湘南国際村ランドスケープ集団

・TEL 046-878-8650 FAX 046-887-0202
 ・E-mail: mamiana55@chorus.ocn.ne.jp
 ・<http://www6.ocn.ne.jp/~mamiana2/index.htm>



フッピーのよこすか探訪：どぶ板通り

ボランティアコーナー

よこすかボランティアセンター

場 所 〒238-0041 横須賀市本町2-1 総合福祉会館4階

開 所 月曜日～土曜日 9時～17時(日曜日と祝日は休み)

電 話 (821)1303 (825)0017 / FAX (824)8110

E-mail shakyo-v@abox22.so-net.ne.jp

ホームページアドレス <http://www.yokosuka-shakyo.or.jp/vc/>

※ボランティア等の申込み・問合せ先を明記していないものは、よこすかボランティアセンターが窓口です。

ボランティア大募集



1. 募集团体・メロディー

内 容：カレー作りの手伝い

日 時：2月26日(日) / 9時45分～15時

場 所：調整中(ボランティアセンターへおたずねください)

☆ダウン症のお子さんのグループです。

2. 募集团体・マリの会

内 容：水泳の補助

日 時：毎週第1～4土曜日 / 11時30分～12時30分

場 所：久里浜花の国プール

☆女性希望。マリの会は知的な障害のある方、ダウン症の方のグループです。

3. 募集团体・みはるスポーツクラブ

内 容：運動補助(バドミントンの相手など)

日 時：毎週木曜日 / 16時30分～18時

場 所：三春コミュニティセンター体育館

☆みはるスポーツクラブは知的な障害のある方のグループです。

第7回 ボランティアフェスタよこすか

内 容：横須賀を拠点に活動するボランティアグループの活動を紹介します。
踊り・歌・演奏・マジック・けん玉等のパフォーマンス、展示紹介、地域作業所の作品販売、飲食ブースもあります。皆さんのご来場お待ちしております。入場自由。

日 時：3月10日(土) 10時30分～15時30分

場 所：総合福祉会館 4階点字図書館・5階各会場

主 催：横須賀市ボランティア連絡協議会

問い合わせ：よこすかボランティアセンター



災害時に備えて学校体育館で宿泊体験 ～寒さを体感～

地震災害が起きると、多くの人たちは「震災時避難所」へ避難することになります。現在、横須賀市が指定している震災時避難所は学校の体育館です。

今回は、平作小学校にご協力いただき、体育館で夜を明かす体験を行い避難所での生活を考えます。

■交流・宿泊コース

<内 容>さまざまな人たちがひとつの場所に避難し、宿泊体験をします。

<日 時> 1月14日(土) 17時～1月15日(日) 7時まで

<集合場所> 平作小学校

■外国人支援・宿泊コース

<内 容>災害時に外国人が直面する課題について学び、理解を深めます。

<日 時> 1月14日(土) 14時～1月15日(日) 10時

<集合場所> 池上コミュニティセンター

(共通事項)

<場 所> 平作小学校

<対 象> 防災や災害活動に関心のある人で、健康上、体育館での宿泊に問題のない小学生以上(中学生までは保護者の同意が必要)の方

<参 加 費> 500円(保険・食事代として)

<定 員> 各30人(定員を超えた場合抽選)

<持 ち 物> 食器、防寒用の毛布、寝袋(寒さ対策に必要なもの) など

■交流・宿泊コースのお申込みは

電話、FAX、Eメールでボランティアセンターまで。

■外国人支援・宿泊コースのお申込みは

直接、NPO法人横須賀国際交流協会(TEL827-2166)まで。

【主 催】 横須賀災害ボランティアネットワーク、NPO法人横須賀国際交流協会、横須賀市



AD.MIND CO.,LTD.
Design Production Company

最良の結果を導き出す良きパートナーでありたい。

当社は、ワンストップ・トータルデザインサービス企業として設立いたしました。お客様のニーズに最大限お応えするためにお客様との厚みのあるコミュニケーションを最重要と考え、プロセスひとつひとつに“想い=マインド”を込めています。

企画 デザイン(Graphic・Web) 撮影

eBook 3DCG Movie 印刷

〒239-0807 横須賀市根岸町3-14-25 グレイス5/1F
TEL.046-838-0555(代) FAX.046-834-3331

株式会社 アド・マインド

E-mail: contact@admind.jp

URL: <http://admind.jp>

寄贈いただきました

12月13日、関東自動車工業株式会社 様 から車両を寄贈いただきました。

この車は、車いすに乗ったまま乗り下りできる福祉車両です。ボランティアグループと協働で実施している、公共交通機関の利用が難しい高齢者や障害者等の送迎サービスで活用させていただきます。



お気軽にご相談下さい

秘密厳守

※場所はいずれも総合福祉会館2階です。
相談日が祝日に当たる時はお休みとさせていただきます。

生活福祉資金貸付相談

所得の低い世帯、お年寄りや障害のある方の世帯を対象に、安定した生活を送ることができるよう資金貸付の相談を行っています。

【資金について】

- ①お困りの内容によって資金の種類が異なります。(一般生活費の貸付けはありません。)
- ②資金の種類によって民生委員による相談援助が行われます。
- ③原則として連帯保証人が必要です。(市内在住の方)。

【予約制】窓口の相談は混雑していますので、お越しいただく前に必ず電話でご連絡ください。

●毎週月～金曜日

9時～11時30分・13時～16時

予約はTEL(821)1301

地域福祉課 生活福祉資金担当

介護相談

福祉機器や介護について介護福祉士がお答えします。

●毎週月～金曜日

10時～16時 福祉機器展示場

電話相談TEL(824)9436

住宅改造相談

ちよっとした工夫や改造をすることで、暮らしやすい家になることができます。

障害者や高齢者のより住みやすい環境をつくるために、神奈川県建築士事務所協会横須賀支部の建築士をはじめ、介護福祉士が相談に応じます。

【予約制】

●毎月第4水曜日

10時～15時

予約はTEL(821)1301

あとがき

緊急にショートステイを利用させて頂きたいという依頼が飛び込んだ。視力の不自由な独身男性Sさん(八九歳)が自宅で転倒、救急車で病院に搬送されたが骨折がなく、そのまま帰宅。しかし痛みがひどくケアマネージャーに助けを求めてきたもの。幸い空きベッドがあり、直ちに入所を受け入れた。Sさんは、一人息子を亡くし、定年後、心の支えであった妻も死別、視力を失いつつも一人暮らしの生活を十数年続けている。甥のHさんは、同居を勧めるが迷惑をかける、もう少し自宅に居たいと固辞している。ショートステイ利用中、関係者で今後のSさんの生活を協議した。甥のHさんは、視力、理

解力が低下し、金銭管理も手伝っており在宅生活は限界にきていると話す。ケアマネージャーは、盲養護施設の検討も視野にすべきと、包括支援センターは、施設の入所先は本人の意向も考慮して時間をかけて検討が必要と提案。しかし、いずれにしても究極は、Sさん本人の意向を確認することに。ショートステイの感想を交え、Sさんと話し合い。「皆さん本当に良くしてくれ感謝しきれない。食事でも美味しく、しっかりと食べて体の調子も良い。皆様のご配慮は有難い。しかしわがままで申し訳ないが、もう少し自宅で暮らしたい」と涙を流す。関係者は、介護されるSさんの声をきっちり受け止め、自力での摂食状況、体力・歩行力の回復、夜間の過ごし方を確認し、週五日のホームヘル

ありがとう

社会福祉のために、温かい寄付がありました。(敬称略)

平成23年9月1日～11月30日

高橋絃子、玉井歌謡塾 玉井明、船橋珠枝、栗田敏彦、ゆきこ、いし家家庭教育振興協会、JAよこすか葉山虹の会、パーラー風羅巴、横須賀文化協会二代目梅網光美会、NPO法人車椅子レクダンス普及会横須賀支部、㈱根岸工務店、大津二丁目老人生きがいの家、秋本トヨ子、船越七丁目梅友会・船越七丁目第二梅友会、石川二三夫、匿名4件

手話ダンスグループ「ゆらぎ」、港南区地区VC、何川悦子、鶴阿部睦会 共楽荘、山崎峰崇、神林純子、ヒューマン、三春町地区VC、徳嶺啓子、リッチランド、手話サークル逸見、飯塚工業、横須賀市シルバー人材センター、大津地区VC、衣笠地区VC、横須賀市自然・人文博物館、指宿千恵子、ターチー模型、柳田和代、匿名7件

寄付金21件 二八二、九七〇円
物品44件

パー派遣を組み、Sさんは、希望通り自宅に帰られた。

今回の緊急対応で、対象者の自立支援、自己決定の大切さを再認識した。対象者の体力や認知機能の変化してきた場合、その状況を迅速に把握し、対象者の望み到的に的確に対応しつるネットワーク(連携網)の構築を、そして援助する者が対象者の願いに詳しいかにして添いつるかを教訓として受け止めた。(え)

